

PMシンポジウム2012 開催のご案内

私たちは21世紀に入るのを機に新たな未来が始まることに期待を抱いていたのではないのでしょうか。しかし、10年以上が過ぎ、低迷する社会・経済に加え、東日本大震災と福島第一原発の事故や先の見えないヨーロッパの経済危機などの対策に追われ、自信を失いかけ、描いてきた明るい未来像に疑問を持ち始めているのではないのでしょうか？

世界経済の重心は急激に欧米先進国から大きく東アジアの新興国に移行しつつあり、加えて我が国においては、世界に類を見ない急激な高齢化と社会、企業、個人に迫る格差の拡大が進んでいます。いま、私たちは各レベルで目指すべき未来像を新たに描き、実践して行くことが求められています。

今回のシンポジウムでは、テーマを「創ろう！新たな未来」とし、希望の持てる未来を築くための知識や経験を交換し、新たな未来を創るきっかけをつくりたいと願いました。

この観点から、昨年好評であった特別企画には「未来創造トラック」を設けました。更に、多方面で顕著な活動を展開されている有識者にご経験を中心にご講演を依頼、また、セミナーやワークショップによる学習を通じて、目指すべき未来へ向かう原動力としての知識やヒントを得ていただければと、個々のテーマを選定いたしました。

参加の皆様とともに、未来像を考え、描き、創り上げる2日間になればと考えます。

各種ポイントの認定対象となる—— PMシンポジウム 2012

■CPU ■PDU ■PM教育受講証明 ■知識ポイント

■CPU

発給ポイントは以下の通りです。(1時間当たり2ポイントが基本となります)

- 1日目(全時間出席の場合) : 10.5ポイント
- 2日目(1セッション・2.5時間) : 5ポイント
(2セッション・5時間) : 10ポイント

■PDU

発給ポイントは以下の通りです。

- 1日目 : 5.25PDU
- 2日目(1セッション・2.5時間) : 2.5PDU
(2セッション・5時間) : 5PDU

注意 PMI®へのPDU申請は必ず一括で行ってください。(1日目・2日目を分割するとエラーになります)
また、PMP®資格認定試験受験用受講証明書も発給致します。

■知識ポイント(ITコーディネータ)

ITコーディネータ資格者には、協賛により、1日目は6時間30分、2日目は、1セッションは2時間30分、2セッションは5時間(4時間当たり1ポイント相当(上限なし))の「知識ポイント」が付与されます。

PMシンポジウム2012 基調講演

1日目(9月6日) 午前

基調講演1 10:00~ 希望のチカラ

東京大学 社会科学研究所 教授 玄田 有史

希望とは何だろうか。2005年から行ってきた希望学(正式名称:希望の社会科学)では、希望(Hope)を次のように説明してきた。

Hope is a Wish for Something to Come True by Action.

希望は、強い「思い(wish)」、具体的な「何か(something)」、「実現(cometrue)」のための道筋、そして「行動(action)」の四本柱から成り立っている。希望がみつからないとすれば、四つの柱のどれかが欠けている。何が欠けているかが見つければ、希望を自分たちのチカラでつくり出すことはできるのだ。

希望を持っていない人には、様々な背景がある。なかでも重要なのが、人と人とのつながりだ。震災後、しばしば耳にするようになった「絆」だ。絆がない人は、希望をみつけることもむずかしい。

しかし、ひとくちに絆といっても、その中身は多様だ。大事なものは、自分の知らない世界を知っていたり、自分のできないことができる、そんな人たちとの窮屈ではない「緩やかな絆」だ。この緩やかな絆を、社会学では「ウィーク・タイズ」と呼ぶ。被災地でも、復興に向けて確かな歩みを始めた人は、きまってウィーク・タイズを持っている。

プロジェクトを率いるのに必要なもの、ウィーク・タイズだ。緩やかな絆を通じ、それぞれが自分の希望に出会う。そしてプロジェクトにかかわる一人ひとりの希望が共有されたとき、そこに生まれるのが、プロジェクトの希望なのだ。

希望は、とらえどころのないものだが、しかし、未来を生きるために必要なものだ。そんな希望について一緒に考えてみたい。



【講演者略歴】玄田有史(げんだ・ゆうじ) 1964年島根県生まれ。東京大学経済学部卒業。経済学博士(大阪大学)。東京大学社会科学研究所教授。専門は労働経済学だが、2005年より希望学という新しい学問を始める。著書に『仕事のなかの曖昧な不安』(中央公論新社、サントリー学芸賞他)、『ジョブ・クリエイション』(日本経済新聞社、エコノミスト賞他)、『希望のつくり方』(岩波新書)他。東日本大震災復興構想会議専門委員会委員もつとめた。

基調講演2 11:05~ スーパーコンピュータ「京」 10ペタフロップスへの挑戦

富士通株式会社
次世代テクニカルコンピューティング開発本部 本部長 追永 勇次

理化学研究所と富士通が共同で開発しているスーパーコンピュータ「京*」は、世界で初めて10ペタフロップスを達成した。「京」は、最先端の製品開発、医療・新薬開発、防災・地球環境問題、新エネルギー・新材料開発や宇宙解明など、画期的な社会貢献と夢の実現が期待されている。

スーパーコンピュータは1960年代に世界で初めて開発されてから様々なベンダーによって革新的な技術開発が行われ、驚異的なスピードで性能が進化してきた。その中で「京」が目指したのは、特定の性能評価プログラムで10ペタフロップスを達成することだけではなく、多くのアプリケーションが「京」の上で開発され、そのアプリケーションを利用して様々な研究成果を得ることである。富士通は実用的なスーパーコンピュータを構築するため、消費電力や設置面積といった多くの課題を解決すると同時に10 PFLOPSを実現するという高い目標のもと開発に取り組んだ。

本講演ではスーパーコンピュータの歴史と技術を概観しながら、富士通で「京」の開発指揮を執ってきた立場から開発への取り組みについて紹介する。

*「京」は理化学研究所が2010年7月に決定した「次世代スーパーコンピュータ」の愛称です。



【講演者略歴】追永勇次(おいなが・ゆうじ) 1974年富士通株式会社入社。2000年コンピュータ事業本部第三コンピュータ事業部長、2003年サーバシステム事業本部技術部長、2007年次世代テクニカルコンピューティング開発本部技術部長兼システム開発統括部長、2011年より同開発本部長。大型汎用計算機およびスーパーコンピュータのアーキテクチャおよびハードウェアの開発に従事。現在、次の新しいスーパーコンピュータの開発を推進している。